



クスリのはたらき

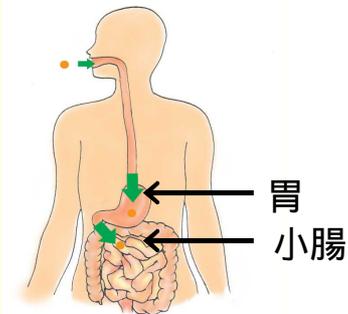
クスリの体内でのながれ

病気を治すのは基本的に私たち自身のからだです。その体内の仕組みが故障したり働きすぎるのを調節したり、病気の原因を取り除くことによって、病気を克服しようとするのがクスリです。それがうまく働いてくれるように、悪さをしないように、クスリとのつきあい方を理解しましょう。

今回はクスリの体内での流れについて説明します。

吸収

クスリには錠剤、カプセルなどいろいろな形がありますが、クスリを飲む(内服)と、多くは胃で溶け、小腸で「吸収」されます。



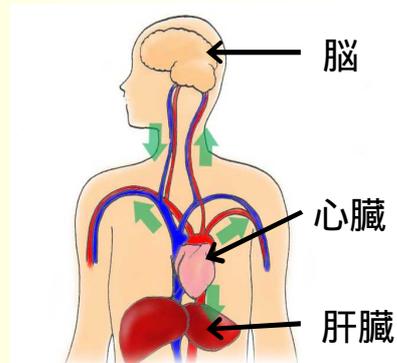
代謝

小腸で「吸収」されたクスリは、血液中に移動し、腸間膜静脈から門脈を通り肝臓に運ばれます。クスリは一部、肝臓で分解されます。これが「代謝」です。



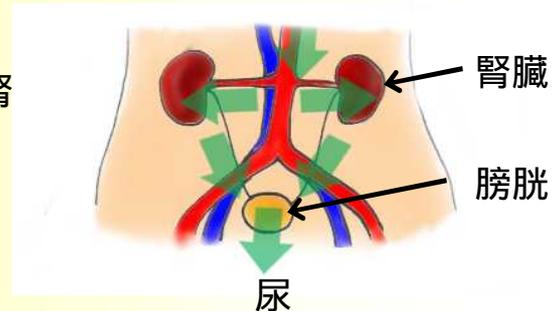
薬効

クスリと分解物(代謝物)は肝静脈、大静脈を通り心臓に運ばれます。そして心臓から大動脈を通り全身に運ばれ、目的の病態組織にも運ばれクスリは作用します(薬効)。



排泄

役目を終えた血液中のクスリは腎臓から尿中へ「排泄」されます。



クスリの吸収、代謝、薬効、排泄のいずれにも実験動物と人間では、大きな違い(種差)があります。そのためよく効いて(薬効が高い)安全な(副作用の少ない)クスリを作るためには実験動物だけでなくヒト臓器・組織を用いた試験が必要で、欧米では市民の協力を得てこのヒト臓器・組織を用いた試験がごく一般的に行われています。



体内に吸収されたクスリ

